

桜蔭俳話会 十一月句会 (第三七〇回)

平成三十年十一月二十五日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

- 4点①よく笑ふ膝叱りつつ紅葉狩 才美
- 3点①風評に耐へし歳月冬紅葉 守
- 3点①俺が生き隣が死ぬる秋日和 眞壽
- 3点 お互いの言葉は飛礫秋の暮 幸
- 2点①唇といふ自由不自由文化の日 才美
- 2点 落ち花梨深き傷より匂ひ立つ 友子
- 2点 門標の文字のうすれや夜半の月 幸
- 2点 日向ぼこ残り時間を逆算す 守
- 2点 存分に生きし証や冬の蝶 守
- 2点 戦時中モンペ姿の七五三 幸
- 2点 越境の箸を許しておでん鍋 守
- 2点 願事を忘れ小春の神参り 才美
- 2点 英単語一つ覚えて冬に入る 明美
- 2点 遅き帰宅の玄関匂ふ煮大根 友子
- 1点①裂織の音の艶めく萩の花 幸
- 1点 銀杏の指より白く干しあがり ヤエ子
- 1点 ひと気なき渚あまたの浮寝鳥 友子
- 1点 桜紅葉自然の驚異はさむ本 ヤエ子
- 1点 檸檬もぐ鋭き棘の傷いくつ 友子
- 1点 病む友や外泊許可の初時雨 邦子
- 1点 禅寺や落葉ひとつのなき小道 ヤエ子
- 1点 霜の夜や個人情報ひとつ消し 守
- 1点 体調のすぐれぬ日々や冬来たる かほる
- 1点 煉瓦造りの要塞跡や石露の花 ヤエ子
- 1点 忘れまじ旅のつづきの寒北斗 才美
- 1点 早すぎる命を惜しむ枯尾花 眞壽
- 1点 ステンドグラスへ差し込む冬日マリア像 友子
- 1点 垣ごしの返り花まで予後の旅 才美

※

- マスクする待合室の二十人 かほる
- 赤々とななかまどの実青空に 直子
- 木の葉髪緩く束ねしゴムバンド 明美
- 短日や故郷に残る義母一人 邦子
- あやふやな列の末尾や枯葉散る 守
- 見渡せば芝のをちこちねじれ花 直子
- 九品仏の一体補修冬紅葉 友子

- 不動尊は溪谷の果て花八手 友子
- 待っていたこたつ出して冬支度 直子
- 紅葉や濃い政治色トランプ氏 直子
- 地面師の知らぬ顔して冬の街 明美
- 誰が置きし朝の庭先草珊瑚 邦子
- 竹秋の画鋏錆びつく掲示板 幸
- 来年も咲いてくれよと菊手入れ 邦子
- 防災の意識うながす三の酉 かほる
- さざなみの湖岸彩る冬紅葉 友子
- 子パンダの自立促がす小春かな 明美
- 黄落の一樹の統ぶや空の黙 才美
- ぎんなんや音響かせて殻を割り ヤエ子
- 長き夜や光源氏に懸想して 才美
- さえざえと松籟さえざえとして予後 才美
- 過去乗せて未来へ向かふ白鳥来 守
- 大袋の蜜柑の土産山帰り 友子
- 庭先の不揃いの菊供ふなり ヤエ子
- 軍港やおやじバンドの音秋天 ヤエ子
- 誕生日の届かぬ想い月仰ぐ 直子
- 最果ての海へ散り込み冬紅葉 守
- へドニアとユーダイモニアおでん食ふ 守
- 秋潮や巨大軍艦浮かせをり かほる
- ゆくりなき居場所探しや冬に入る 守
- 小春日やバス停ベンチシニアたち ヤエ子
- 見得を切る釣瓶落しの武者人形 幸
- 三の西防災グッズ揃へたり かほる
- 褒章や今年いちばん旨き酒 ヤエ子
- 柿たわわ幼なじみは転校生 才美
- 立冬の深く眠りし地震の巢 守
- 炬燵真白に菓子パンの粉砂糖 明美
- 岬村ガードレールの干大根 友子
- 入院や暇が潰せる日向ぼこ 眞壽
- 窓の空一筋白く冬初め 眞壽
- 花八ツ手寒さに怖じず咲き続き 邦子
- 冬隣リストラ上手ゴーン氏や 直子
- 皆いびつ傍に置きたし榎櫃の実 才美
- (欠席投句 古野明美、恩田才美、京林眞壽、松浦かほる)

「事務局からお知らせ」

○十二月旬会

十二月二十三日（日）午後一時から、旭区民文化センター（サンハート）で行います。  
兼題は、「山眠る」です。

○一月旬会

一月二十日（日）午後一時から、旭区民文化センター（サンハート）で行います。

○二月は旬会は休みです。